

I. はじめに

I-1. 構想の背景と目的

- 西鉄久留米駅周辺は、かつて本市の賑わいの中心となっていたが、郊外における大型商業施設等の進出などにより、**賑わいが衰退**している傾向にある。
- 「久留米市立地適正化計画」で、市の中心である西鉄久留米駅周辺等に、県南の発展を牽引する**高次都市機能が集積したコンパクトな拠点市街地**を形成することとしており、重要性が高まっている。
- 「ウォーカブルなまちづくり」など、中心拠点に求められる機能や市街地像が変容しており、多様な主体との連携により、**持続可能なまちづくり**を進めることが不可欠となっている。

市民や事業者、行政が一体となって、県南及び本市の活力を牽引し続けていく西鉄久留米駅周辺を目指し、**多様な主体による整備の基本的な方向を定める「西鉄久留米駅周辺整備構想」**を策定する。

I-2. 整備構想の位置づけ

久留米市新総合計画

【土地利用】 久留米市都市計画マスタープラン 久留米市立地適正化計画	【交通】 久留米市交通マスタープラン 第2期久留米市地域公共交通網形成計画	【その他関連計画】 第三次久留米市環境基本計画 久留米市国土強靱化地域計画
--	---	---

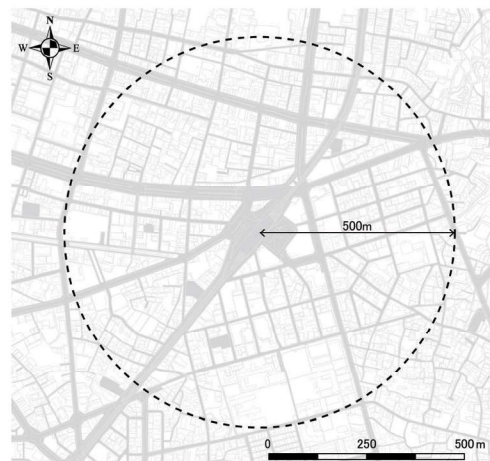
西鉄久留米駅周辺整備構想

各種事業の実践

I-3. 対象範囲

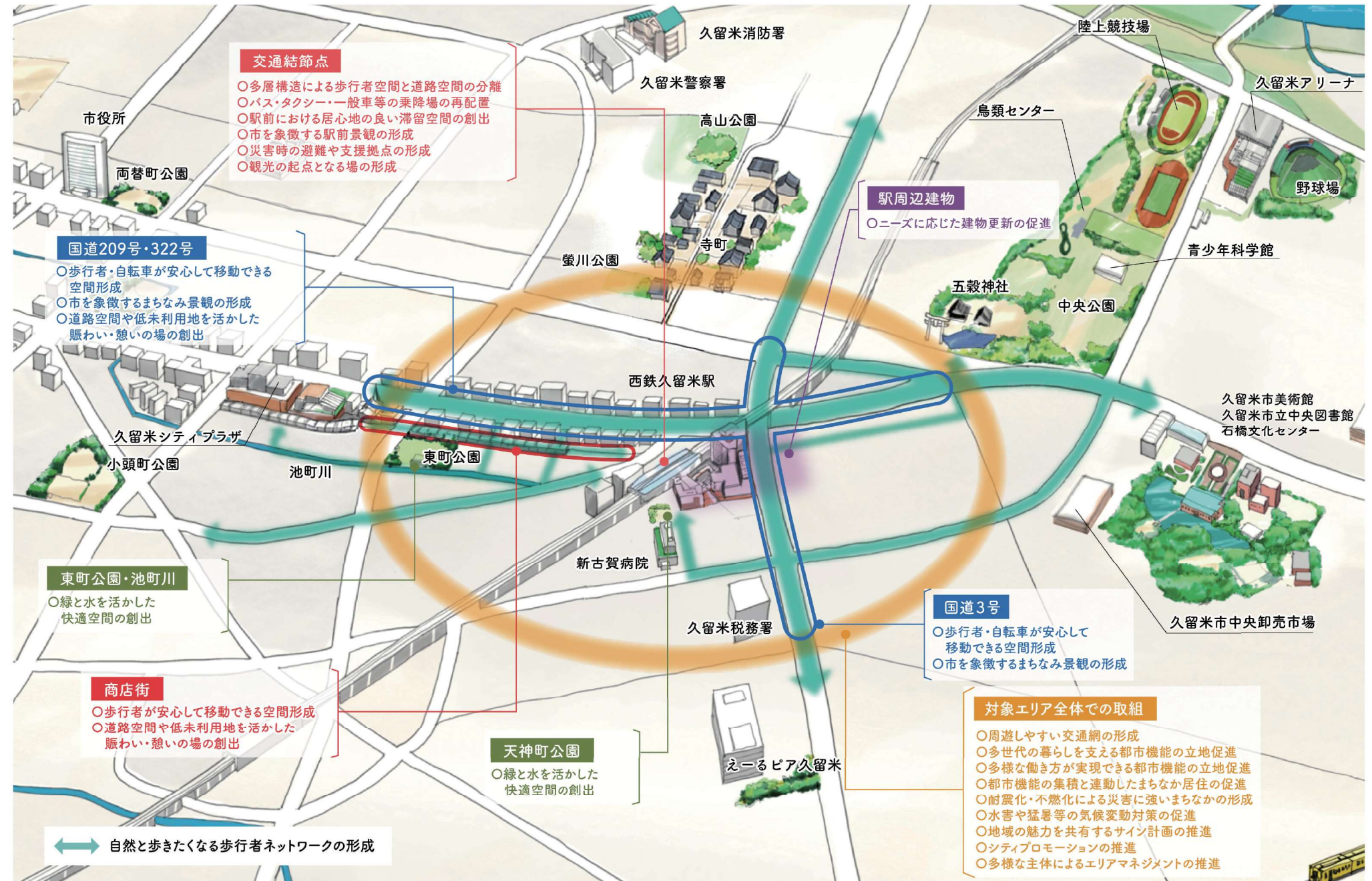
西鉄久留米駅を中心
に半径 500mの範囲

- ※久留米市立地適正化計画における都市機能誘導区域の設定基準を参考に設定
- ※高齢者を含めた一般的な徒歩圏



II. まちの将来像

人が集い、人が安らぐ、人にやさしい、人中心のまちなか



問い合わせ先

久留米市 都市建設部 まちなか整備課
所在地：城南町15番地3 本庁舎12階
TEL：0942-30-9168
FAX：0942-30-9714



方針1

快適性に優れた「訪れやすく、回遊の起点となる交通結節点」

現在の特徴と可能性(ポテンシャル)

■県南屈指の交通結節点

- ・様々な交通手段が接続し、電車やバスが多く運行する県南屈指の交通結節点となっている。

■九州内でも有数の乗降人員数を誇る

- ・1日当りの乗降人員(2023年度)は29,261人と、九州内の駅の中で、上位10駅に入る。

解決したい課題

■多様な交通モードの受け入れ環境が不足



■駅前の歩行者空間、滞留・待合空間の快適性が不足

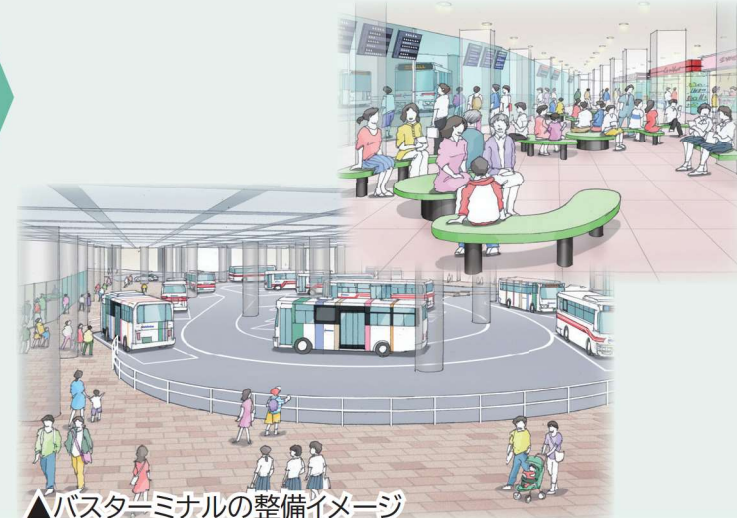


■駅から周辺へのアクセスがづらい

▲混雑する路線バスの待合環境

－ 取組内容 －

- 多層構造による歩行者空間と道路空間の分離
- バス・タクシー・一般車等の乗降場の再配置
- 駅前における居心地の良い滞留空間の創出
- 周遊しやすい交通網の形成



▲バスターミナルの整備イメージ

方針2

心地よく移動できる「誰もがめぐりたくなるまち」

現在の特徴と可能性(ポテンシャル)

■多くの人が買い物・飲食を目的に来訪

- ・様々な商業施設や業務施設等が多数立地し、買い物や飲食等を目的とした来訪者が多い。

■本市のシンボルとなる多種多様な施設が駅周辺に集積

- ・久留米シティプラザ、中央公園、石橋文化センター等のシンボルとなる文化・交流施設が立地している。

解決したい課題

■人のための空間が少なく、まちなかでの回遊や滞在がしづらい



▲歩道が狭く、自転車と歩行者が錯綜する幹線道路

■周辺道路において、交通混雑が発生



▲西鉄久留米駅前の景観

■景観が雑然としており潤いを感じられない

－ 取組内容 －

- 自然と歩きたくなる歩行者ネットワークの形成
- 広域道路交通ネットワークの再編
- 歩行者・自転車が安心して移動できる空間形成
- 市を象徴する駅前・まちなみ景観の形成
- 道路空間や低未利用地を活かした賑わい・憩いの場の創出
- 緑と水を活かした快適空間の創出



▲歩行者ネットワークの形成イメージ

方針3

賑わいが持続する「将来への期待にあふれるまち」

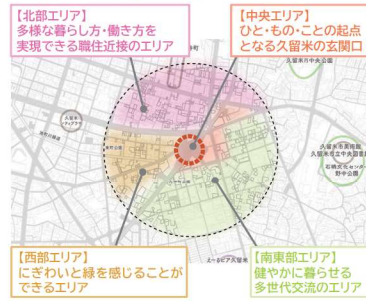
現在の特徴と可能性(ポテンシャル)

■若い世代を中心に人口が増加

- ・駅周辺の人口密度は90.5人/haと、非常に人口密度が高い。
- ・駅周辺では年少人口及び生産年齢人口は増加傾向となっている。

■駅の東西南北で特徴的な土地利用が進んでいる

- ・北部は“業務機能”、西部は“商業機能”、東・南部は“居住・文化・公益機能”と特徴的な土地利用が進んでいる。



▲エリア毎の方向性イメージ

解決したい課題

■駅周辺の賑わいや活気を生むような建物の更新や土地利用があまり進んでいない

■防災面から安全・安心に利用できる空間となっていない

－ 取組内容 －

- ニーズに応じた建物更新の促進
- 多世代の暮らしを支える都市機能の立地促進
- 多様な働き方が実現できる都市機能の立地促進
- 都市機能の集積と連動したまちなか居住の促進
- 災害時の避難や支援拠点の形成
- 耐震化・不燃化による災害に強いまちなかの形成
- 水害や猛暑等の気候変動対策の促進

【事例】JR福井駅(福井県福井市)



▲複数の都市機能が集積したJR福井駅の再開発ビルと併設された屋根付き屋外広場

(出典:福井市にぎわい交流施設HP)

方針4

地域の魅力を育て、価値を共有する「みんなが誇りを持てるまち」

現在の特徴と可能性(ポテンシャル)

■観光や回遊の目的となる魅力が多い

- ・ラーメンや焼き鳥などの“食”、久留米餅などの“伝統工芸”など様々な観光資源が存在している。
- ・駅周辺には、石橋文化センターや寺町、ほとめき通り商店街など、様々な魅力がある。

■駅周辺を中心とした様々なイベントが実施されている

- ・駅周辺では、多くのイベントや祭りなどが定期的開催され、市外からも多くの方々が来訪している。



▲土曜夜市のほとめき通り商店街

解決したい課題

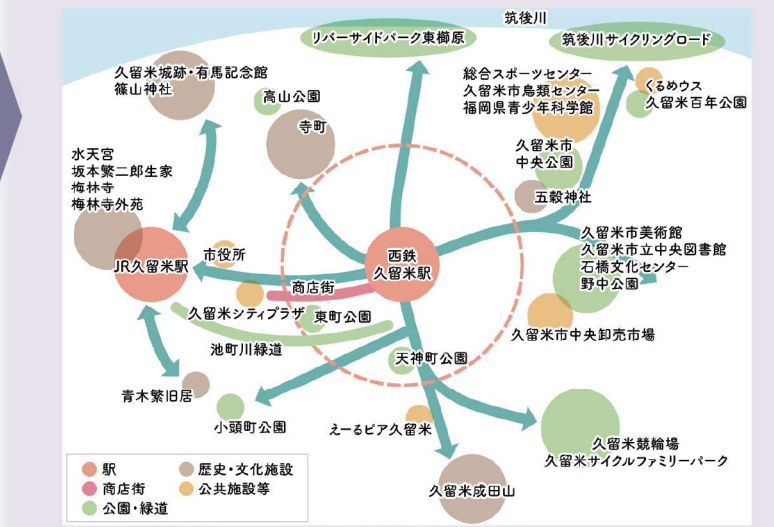
■観光や回遊を促すような情報発信機能が少ない

■多様な関係者間の連携強化が必要

■久留米市や駅周辺の取組の発信が十分ではない

－ 取組内容 －

- 観光の起点となる場の形成
- 地域の魅力を共有するサイン計画の推進
- シティプロモーションの推進
- 多様な主体によるエリアマネジメントの推進



▲西鉄久留米駅周辺の観光資源イメージ